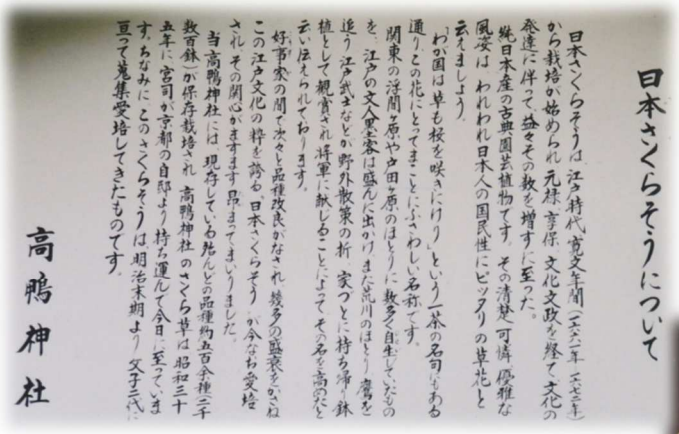
歩こう会　歴史のアルバム　第２４回

平成８年（1996 年）10 月 22 日（火）
奈良　葛城古道を散策　　参 加 者　４４名



日本さくらそうについて

日本さくらそうは江戸時代寛文年間（1661年～1673年）から栽培が始められ元禄享保文化文政を経て文化の発達に伴って益々その数を増すに至った。
純日本産の古典園芸植物です。その清楚可憐優雅な風姿はわれわれ日本人の国民性にピッタリの草花と云えましょう。
わが国は草も桜を咲きにけり という一茶の名句もある通りこの花にとってまことにふさわしい名称です。
関東の浮間ヶ原や戸田ヶ原のほとりに数多く自生していたものを江戸の文人墨客は盛んに出かけまた荒川のほとり鷹を追う江戸武士などが野外散策の折 実つとに持ち帰り鉢植として観賞され将軍に献じることによってその名を高めたと云い伝えられております。
好事家の間で次々と品種改良がなされ幾多の盛衰をへてこの江戸文化の粋を誇る日本さくらそうが今なお愛培されその関心がますます昂まってまいりました。
当高鴨神社には現存している貴重な品種約五百余種二千数百鉢が保存栽培され高鴨神社のさくら草は昭和三十五年に宮司が京都の自邸より持ち運んで今日に至っています。ちなみにこのさくらそうは明治末期より父子三代に亘って蒐集愛培してきたものです。

高鴨神社